

タイトルと見出しはゴシック系フォント

タイトルのフォントは 12 ポイント

余白は 20mm

諏訪湖における〇〇〇の鉛直分布が示す湖水循環

07S〇〇〇〇Z 物質循環

はじめに

諏訪湖における〇〇は・・・・・・とされているが（沖野〇夫，1999），〇〇と××が矛盾するという問題がある．本研究では・・・・・・

本文のフォントは 10.5～12 ポイント

本文は 2 段組にする

句読点は「，」「.」を用いる

考察

実験の結果，温度と塩分が高いほど・・・・・・

実験を通して，温度20℃，塩分30‰，懸濁濃度500ppm，実験条件で・・・・・・ よってこのような環境で・・・・・・すると・・・・・・なると考えられる．

実験方法

諏訪湖において，10m間隔の南北グリッドを設定して，格子点で水深1mごとの湖水サンプリングを毎週行った（2010年4月15日～現在）．湖水サンプルは・・・・・・

今後の課題

△△でわかった変動要因を検討するために，・・・・・・

カラーは使わないこと．印刷は白黒です．全体の構成はだいたいこのような感じ．多少変えてもよい

結果

・・・・・・
・・・・・・となった．また沈降速度は0.30mm/sec～1.58mm/sec (max10size) となった．また大きなフロックほど沈降速度が速くなる傾向を示した．

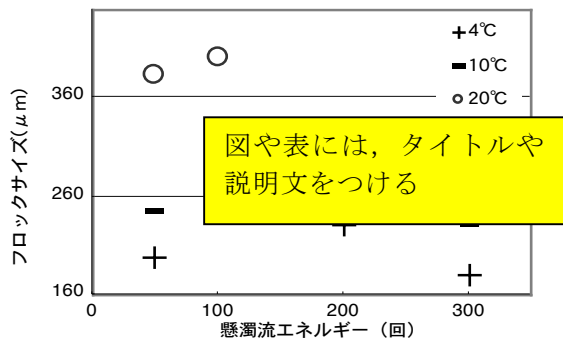


図1. 温度と懸濁流エネルギーの違いによるフロックサイズの変化 (max10size) 実験条件: 懸濁濃度1000ppm、塩分30‰